令和 6 年度文部科学省委託事業

「教師の英語力・指導力向上のための実践的オンライン研修」

Module 1　ZOOM ワークショップ

参加者事後アンケートまとめ

研修内容

中学校：　Small Talk: Demonstration & Analysis（スモールトークのデモ授業と分析）

高等学校：　Integrated skills lesson: Demonstration & Analysis（技能統合型の授業：デモ授業と分析）

まとめ

中学校

今までは Small talk を行う際に自分の中で、「これはやった方がいいだろう」という断片的な知識や生徒の観察から必要と思われたことを蓄積して行っていたが、今回研修を受けたように体系的なステップとして確立できていなかった。だが、今回の研修を通して、Small talk を行う際にどのようなステップがあるとよいのか、またそれはなぜかということも含めて学ぶことができた。

高等学校

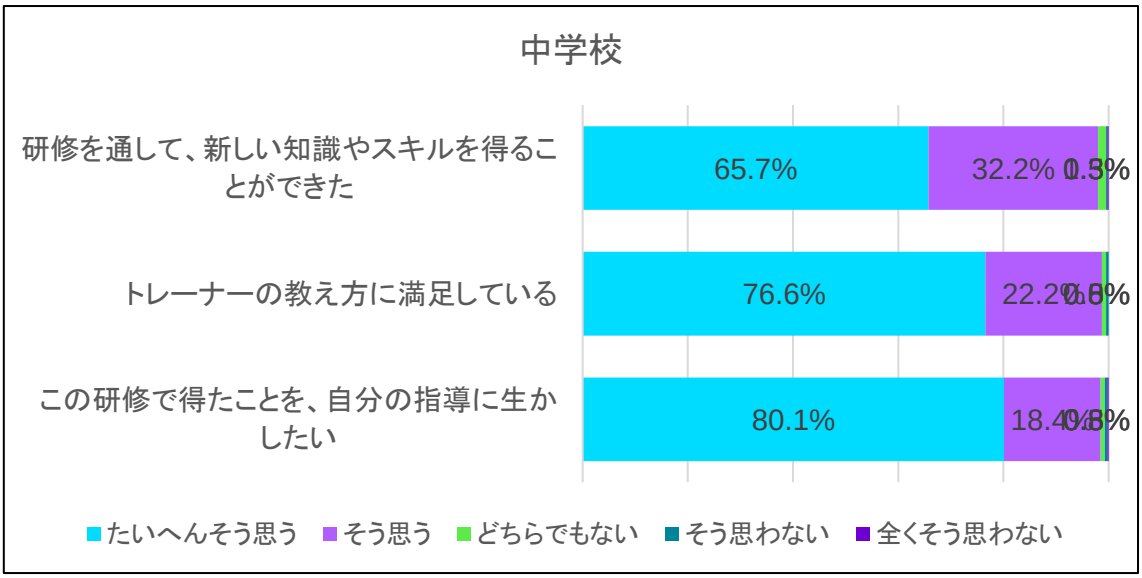
今回の研修は、生徒に寄り添った授業とはどういうものかを改めて考え学ぶ機会になりました。生徒が自分でアイデアを引き出せなさそうなかゆいところで写真のヒントがあったり、補足説明で理解度をさらに上げたり、生徒同士のディスカッションがより活発になるような仕掛けが所々に散りばめられてあって、教材研究でこういうところに気をつけて準備すれば良いのか、とヒントをたくさん得ることができました。今は夏休みで明日からいざ実践！というわけにはいきませんが、すぐに教材研究に取り掛かろうと自分のモチベーションを上げることができ、わくわくしました。また、普段は県内の先生方としかお会いできないので、デモンストレーションを通して県外の先生方ともお話することができ、大変刺激になりました。

中学校と高等学校どちらにおいても、受講者の感想から、今回の研修を以下のようにまとめることができる。

- 受講者が必要とする内容（厳選）について、
- 実践的・具体的で、教室で使える指導技術を、その根拠とともに（実証されており再現性が高い）、
- 講師の指導モデル（お手本）を学習者として体験し、練習しながら、
- 自分が指導することをイメージしつつ、日頃の課題解決につながる視点からふりかえり（自分事）、
- 全国の仲間とともに主体的に参加することで、
- 「やり方がわかった」と手法を習得し、「やれそうだ」と見通しをもて、実践への意欲も向上した研修。

授業改善に必要なメカニズムがバランスよく含まれていた。
（授業改善のための研修には、オンラインでも対面でも含めるべき要素がある）

中学校



	研修を通して、新しい知識やスキルを得ることができた	トレーナーの教え方に満足している	この研修で得たことを、自分の指導に生かしたい
たいへんそう思う	65.7%	76.6%	80.1%
そう思う	32.2%	22.2%	18.4%
どちらでもない	1.5%	0.8%	0.8%
そう思わない	0.3%	0.5%	0.5%
全くそう思わない	0.3%	0.0%	0.3%

感想

1. スモールトークの実践的・具体的な指導法（足場がけ）や指導技術（finger drills）、話す活動の重点（文字に頼らず、音声を重視した指導法）

- Finger Drills の方法によって、長い質問文でも暗記しやすくなることが分かりました。
- いつも話す内容やその答え方を板書していたが，やり取りをする際，生徒同士が必ず板書を見るため，自然なコミュニケーションとはずれが生じていた。
- なるべく音声から理解をうながすことで、文字を読むのではなく、即興で思いを生徒が伝え合えるようにしたい
- Small Talk の進め方についてステップを追って教員がどのような質問やデモンストレーションをやっていけば良いかを学ぶことができました。
- 例を示すこと、生徒に考える時間を 30 秒以上与えること、質問を確認すること、文字は活動の前は見せない方がよいことなど、細かく教えていただき、大変勉強になりました。
- スモールトークや中間指導の実践が注目されている中でも、ここまで具体的な指導法の紹介は初めてでした。実際に自分が授業してみることで、教室をイメージすることができました。中学生は会話がなかな

か続かないかもしれないけれど、今日の7つのステップでスモールトークの時間を組み立てようと思います。

2. スモールステップ、生徒が自信を持って発話できるようにするための支援

- 生徒にとって段階を踏むことが大事だと感じました。
- 生徒に考えさせたり、つまずきを防ぐ方法を学ぶことができた。
- small talk をする時に question を板書してしまうことが多かったですが、本日学んだ drill technique を使えば、子どもたちが出来ると感じることが出来ました。
- 今までスモールトークは練習をしないでただお題だけ与えてやらせる形で生徒が何も話せないまま 1 分すぎることが多かったのですが、なぜ生徒が話せないのかがわかってよかった。
- スモールトークは授業の中でよくやっていたが、やり方がいまいち合っているか不安だった。今日生徒にとっていい方法を実際に学び、早く試して、やり方を身につけたいと思った。

3. 授業に転用できる現実的な英語使用のモデルの提示

- 常に聞き取りやすく、わかりやすい英語で話していたので、中学生に授業をするときのモデルのように感じた。
- 英語での進め方がわかりやすい英語で授業でもできそうだと感じた。
- トレーナーの先生は具体的な指示をデモンストレーションを通じてシンプルかつわかりやすく示してくれました。また難易度がちょうど良く自分の学年やクラスですぐに実行できると感じました。

4. 実践的で、主体的・対話的な研修の進め方

- グループごとに分かれ、他の先生方と実際に授業をして意見交換ができたことも非常に勉強になりました。
- 全国からの参加の研修ということで、普段であれば関わることのない先生方と交流できたことが大きな刺激となりました。
- 全国の先生方と練習ができて、先生方の一生懸命なお姿を拝見し、スモールトークの内容やお話しぶりからお人柄に触れて、心が熱くなった。

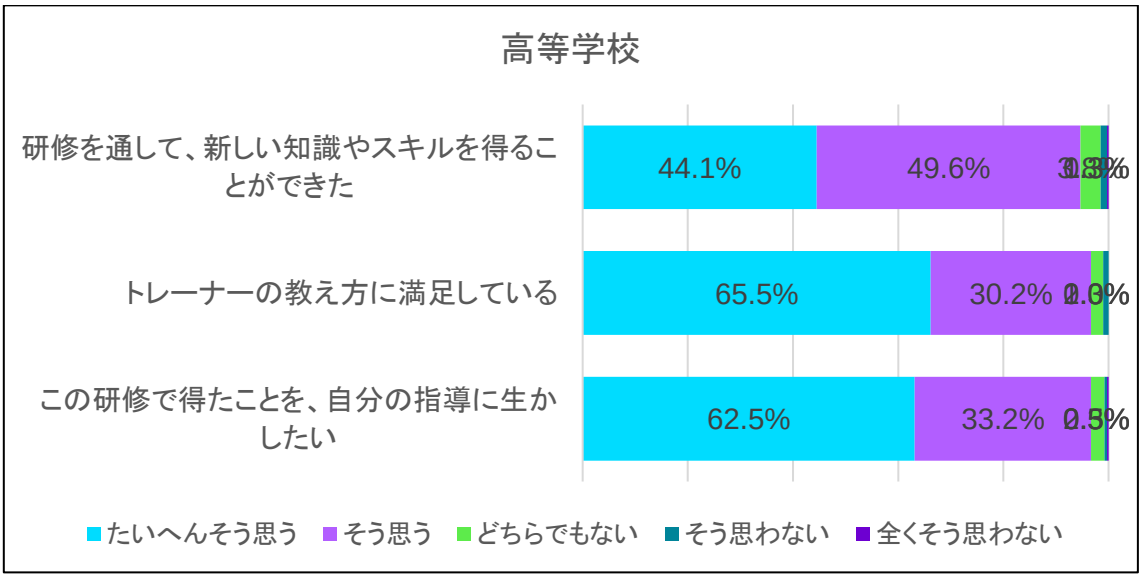
5. 指導に対する意欲向上

- 明日からの授業で使える知識がたくさんありました。
- 明日から実践し、自分の授業力向上のために活かしていきたいです。

高等学校

AとBの二つのコースを設定、受講者の興味関心に基づき選択

- Aコース：生徒の英語力を伸ばすこと（イメージ：CEFR A1 や、A2 の生徒の力を伸ばす）
- Bコース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばすこと（イメージ：CEFR B1 以上を目指す生徒の力を伸ばす）



	研修を通して、新しい知識やスキルを得ることができた	トレーナーの教え方に満足している	この研修で得たことを、自分の指導に生かしたい
たいへんそう思う	44.1%	65.5%	62.5%
そう思う	49.6%	30.2%	33.2%
どちらでもない	3.8%	2.3%	2.5%
そう思わない	1.3%	1.0%	0.5%
全くそう思わない	0.3%	0.0%	0.3%

- 中学校に比べて、「大変そう思う」の回答割合は下がるものの、どの質問に対しても、93%以上の受講者が肯定的な回答であった。
- これはAコース、Bコースいずれにおいても同様の傾向であった。

感想

■指導スキル

スモールステップの実際や具体的な指導方法

- 授業の展開をしやすくなる4つのステップやフレーズを覚えやすくするドリルの方法などを学べた。（B）
- 文法を教える際の、リピートさせて順番に語を増やしていくやり方はすぐに実践したいと思いました。（A）

- 本文の内容理解から自分の言葉（英語）でディスカッションをするに至るまでをスモールステップで取り組ませる方法を具体的に知ることができ、今後の授業で取り入れた場合をイメージしながら受講できました。（A）
- Back chaining と mumble drill について知ることができ、実践していきたいスキルを知ることができた。（B）
- まずは 4 ステッププロセスに則ってやってみたいです。特に、自分の今までの授業では practise が充実していなかったため、back-chaining や、生徒に質問を言わせて自分がモデルとして答えるなど、すぐにできそうなところから取り入れていきたいと感じました。（B）
- 具体的なステップの提示によってディスカッションの組み立てについての理解が深まりました。（B）
- Teaching practice の4つのステップが新しかった。（B）

リテリングとディスカッション

- リテリングとディスカッションのゴールの違いを意識することができた。（A）
- リテリングとディスカッションのゴールの違いは生徒に共有して活動の目的を明確にすることもいいと感じました。」（B）
- リテリングから意見構築に進むプロセスに課題を感じていましたが、日々の取り組みを反省し、改善の糸口を見つけることができました。（A）
- 授業で足りない点や、retelling と discussion の要素を入れて授業内容の修正を加えたい。（B）
- あまり授業内でディスカッションを行うことができておらず、リテリングばかりを行いがちなので、生徒が主体的に物事を考えられるように定期的にディスカッションを実施することも必要だと感じました。（B）
- retelling と discussion には異なる目的があり、どちらも有効に授業に取り入れる必要性を理解できた。（A）

効果的な日本語使用

- 英語の授業において日本語を使うことを躊躇していたが、母語の使用が第二言語での言語活動にプラスの影響を与えるということもあるということがわかった。（B）
- ディスカッションの時に、まず日本語で考えをまとめさせてから、違うメンバーとグループになって今度は英語で話す、というアイディアが新鮮で、すぐに授業に活かしたいと思っています。（A）
- オールイングリッシュの模擬授業で、日本語で話し合う時間があったのは、ふだんの授業でやっていることに自信を持てた。back-chaining は初めて聞いたので、新しい知識として活用してみたい。（A）
- ディスカッションを行う場合にステップを踏んでいくが、まず日本語で意見交換させるというのが自分の中にアイデアとして持っていなかったので、ディスカッション以外にもライティングや即興で意見を言うような発問をした際に活用したいと思った。（A）
- 日本語と英語の配分に気をつけながら、ディスカッションを進める方法が分かった。（A）英語に限定せず、日本語で話合わせることや、数秒間発言内容を考えさせることなど、自分の授業で有効だとかんじました。（A）

技能統合の指導

- リーディングをベースとした内容がとてもよかった。教科書をどう活用してスピーキング活動に持っていくか悩んでいたので助かりました。Retelling に陥りがちだった指導の改善のきっかけにもなりました。2学期が楽しみです。（A）

- リーディングとスピーキングの内容を統合した授業展開について具体的に知ることができ、今後の授業実践にすぐにでも活かせると感じた。（A）
- リーディングだけで終えるのではなくインタラクティブな活動を混ぜライティングやデディスカッションへ展開する流れが理解できました。（B）
- リーディング活動を他の分野に派生させる取り組みがなかなかできておらず、実践してみたいと感じた。（B）

生徒への支援

- 英語が苦手な生徒に対してどのように段階を踏んでゆけば良いか悩んでいましたが、日本語で考えをまとめる時間を長く設けたり、Useful expressions の提示の仕方などを工夫して上手く指導できそうだと感じました。（A）
- スモールステップで準備をさせて自信をもたせてから活動させることの大切さを学びました。」（A）

主体的な学び

- 生徒が主体的に考え、意見交換する機会を持つべきだと改めて思いました。（A）
- Teacher oriented になりがちなリーディングの授業において、生徒主体で考えさせたり意見交換を行うためのコツを多く学ぶことができたと考える。（B）
- あまり授業内でディスカッションを行うことができておらず、リテリングばかりを行いがちなので、生徒が主体的に物事を考えられるように定期的にディスカッションを実施することも必要だと感じました。（A）

■研修の進め方

生徒の立場

- 受動的に講師の話を聞くだけではなく、受講者にも実際に授業を体験することで、生徒の立場になって考えることができました。（A）
- デモンストレーションを生徒として受けることで、普段と逆の立場から授業を見つめ直すことができました。（A）
- 生徒側になって授業を受けることができてよかった。（B）
- Back-Chaining など、実際に自分たちで行うことで生徒目線で授業を考えることができた。ブレイクアウトルームで多種多様な意見を聞くことができ、自分の英語力をもっと伸ばしていきたいとモチベーションも上がった。（B）

能動的な活動にするための実例（デモンストレーション）

- 授業において、どんな意見でも尊重する雰囲気を大切にしたい。（A）
- Discussion を授業に取り入れようと考えているが、どこまで教員が支援すればいいか不明瞭であったためなかなか実施することができなかった。今日の研修そのものが良いデモンストレーションであった。（B）
- 実際に、学習者の立場を経験できるように研修が設定されていると感じました。また、デモンストレーション実施後に、活動にどのような意味があるのか、なぜそのような手順で指導するのか等、説明してくださるので、自信を持って授業実践ができると思います。（A）

指導者としてのロールモデルの提供

- 非常にわかりやすい instruction で自分が生徒に話しかける際の参考になったから。（B）
- 実際のレッスンデモを行う中でフォーカスするポイントや Teacher's Talk など、習得項目である Discussion Task だけでなく様々なテクニックや知見を得ることができ、たいへん有意義だった。（B）
- Ross 先生の時間設定やデモンストレーションの流れが的確に生徒に活動を促していました。パートナーやグループでのディスカッションの設定方法や思考のプロセスを実際の授業で試してみたいと思います。（A）

オンラインでの双方向の研修スタイル

- グループワークが何回も行われ、また、グループも途中変えることで、飽きることなく研修することができました。英文の back-retelling や mumble drills 等、今まで受けたオンラインの授業にはない参加場面が多くあり、主体的に参加できると感じました。（A）
- このように実際に講師の先生や他の先生方と語り合える場が最初の1回だけなのは、本当に残念です。（A）
- 県外の方との交流は初めてで、大変刺激になった。またオンラインでこのような授業ができるということに、驚いた。（B）
- 楽しくわかりやすい研修をありがとうございました。他県の先生方とお話しできたのも刺激になりました。普段の授業にしっかり還元していきたいと思います。ありがとうございました。残りの研修もよろしくお願いいたします。（A）
- 丁寧でわかりやすい説明だった。画面もみやくて理解しやすかった。ブレイクアウトルーム、チャットを効果的に使用していて、自然と講義に引き込まれた。（A）

モチベーション

- 始めて参加して全国から参加されている方々と一緒に研修を受けられて、モチベーションが上がりました。（A）
  今回の研修を受けて、生徒たちに教科書の内容について、スピーキング活動を取り入れていきたいと感じました。（A）
- デモンストレーションをしながら非常にわかりやすく説明してくださった。難しすぎるやり方でもないのでどのレベルの生徒にも使えそうだと思った。（A）

■課題

生徒のレベルに合っていない

- B1 レベル以上であれば、もっと英語を使って思考力を高めるようなコミュニケーション活動ができますので、ちょっと対象者のレベルと研修内容がマッチしていないように感じました。（B）
- 評定がオール1の生徒や9割以上の生徒が英語が苦手とする本校でこの授業を展開していくためにはアレンジや時間が必要だと思います。そのため、今までの授業では英語を日本語に訳し、音読ができることをゴールとしていました。部活や校務分掌など他の仕事もある中で、この質の授業の準備をするための時間を確保することが難しいです。（A）
- 自分の学校のレベルはさらにより低く、今回学んだことを赴任校にどこまで落とし込めるかはまだまだ考える必要がありそうです。（A）
- そもそも理解力が低い、もしくはモチベーションが低い生徒に向けた授業で、今回のアプローチはタフすぎる。内容としてはためになったが、期待したものとは違いました。（A）